



Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.
ワシントン日本商工会会報

7・8月合併号 2026年 No. 584

目次

- ワシントン日本商工会 新任理事のご挨拶……2
- 中村会長退任のご挨拶……………4
- 古茶理事退任のご挨拶……………5
- 研修会報告「Venezuela, Cuba, and Beyond:
Developments and Prospects for the
Western Hemisphere」……………6
- 会員紹介コーナー……………7
- 広告募集のご案内……………9
- やさしいコミュニケーション
「④ 米国における過去の捉え方と歴史の伝え方」
Shiori Communications 岡崎 詩織……………10
- 今月の書籍紹介「ヒューマニッシュ」
ポトマック・アソシエーツ 池原 麻里子……………12
- English Rescue by Jennifer
「Language and Culture」……………14
- 編集後記……………16

今月の特集

「ワシントン日本商工会 理事交代のご挨拶」

このたび会長が交代し、新たに2名の理事を迎えました。それぞれの視点と経験を活かし、今後も活動を進めてまいります。また、当会のためにご尽力いただきました前会長ならびに前理事のお二方には、心より御礼申し上げます。P.2～5

.....

「会員紹介コーナー」

今月は、新たに個人会員となられたお二人をご紹介します。P.7



連載

「やさしいコミュニケーション」

建国250周年を迎えた米国の歴史認識の変化と、その揺り戻しが教育や社会に及ぼす影響、さらに次世代への伝え方についてご執筆いただきました。P.10～

JCAW Copyright © 2026 All Rights Reserved.
会報内すべてのコンテンツの無断転用を禁じます。

ワシントン日本商工会 新任理事のご挨拶

新任理事のご紹介を致します。新会長の齋藤を筆頭に、会員の皆様と一緒にワシントン商工会を盛り立てて参りたいと思っておりますので、ご指導ご支援を宜しくお願い致します。



会長 齋藤健太 (2026年6月～)

President, Kenta Saito

Senior Vice President & General Manager, Washington D.C. Office
Mitsui & Co. (U.S.A.), Inc.

任期中の交代となりますが、中村前会長の日本御帰任に伴い、6月より会長職を引受けました。2025年1月の第二期トランプ政権発足以降、怒涛の時間を過ごしていらっしゃることは広く皆様の共通認識であると存じます。然し、この様な時代にこそ、日本と米国の長期的な投資・貿易の関係強化に繋がる道筋を、会員の皆様と答えを模索していく責任と矜持を感じています。

当地着任は2025年4月、米国駐在は2008～2012年のロスアンゼルスに続き2回目で、幼少期・思春期を過ごしたシカゴを含めると、在米歴は13年超となります。家族は、妻・娘2人(大学生・高校生)・息子1人(中学生)の5人ですが、東京に残した大学生の長女を除き、現在ベセスダで家族と共に暮らしております。

三井物産では1995年の入社以降、鉄鉱石や銅といった金属資源分野の仕事に携わり、主にオーストラリア・ブラジル・チリ・アフリカ等での資源開発と、これら国々の産品を世界中の需要家に供給する仕事に従事してきました。ワシントンDCに来てからは、世界の政治・経済に於ける米国や日本の立ち位置や将来性を的確に掴み、成長市場としての米国の潜在性を引き出す仕事に、自身の経験や知見を活かすことが出来ていると感じます。

トランプ政権下で不確実性が常態化する中、如何にして日本が輝き続けられるか、商工会活動を含め、ワシントンDCに於ける日米振興、会員皆様のご支援、様々な方々との交流を促進出来れば幸甚です。どうぞ宜しくお願い致します。

事項に続く

**会員** 柴 慎太郎（2026年6月～）

Membership, Shintaro Shiba

Vice President

Global External Relations & Geopolitical Strategy

Head of Washington D.C. Office

Sony Corporation of America

2026年6月より会員担当理事を拝命致しましたソニーの柴慎太郎でございます。当地には2023年に着任いたしました。現在は家族（妻、小学4年生の娘）とともにバージニア州アーリントンに住んでおります。

アメリカには、インディアナ州・高校留学（1年）、カリフォルニア州・大学院通学（1年）、ニューヨーク州・駐在（半年）と、これまでも様々なご縁がありましたが、ワシントンDCでの生活は今回が初めてとなります。これまでのキャリアでは、東京にて法務、通商、経済安全保障に関する仕事や、ドバイにて中東・アフリカ・東南アジア・オセアニア地域の法務・コンプライアンスをカバーする仕事に携わって参りましたが、世界の政治経済の中心とも言えるこのDCの地で、この度、商工会の活動を通じて、様々な分野でご活躍されている皆様と交流の機会を頂けることを大変光栄に思っております。

微力ながらも皆様のお役に立てるよう一所懸命務めて参りますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

**地域協力** 堀岡 大祐（2026年6月～）

Community Relations, Daisuke Horioka

Chief Representative, Washington D.C. Representative Office,

Mizuho Bank Ltd.

この度、地域協力担当理事を拝命いたしました、みずほ銀行ワシントンD.C.駐在員事務所の堀岡大祐と申します。2025年8月に当地に着任いたしました。1999年の入社以来、主に営業と審査・調査業務に従事し、東京およびシンガポールで勤務してまいりました。米国勤務および渉外業務はいずれも初めてであり、日々新たな学びの中で業務に取り組んでおります。日系企業の皆様のご関心の高い通商・関税政策の動き、経済政策、金融市場、AI規制等について、情報収集および発信に努めております。

家族は妻と長女（高校生）、長男（小学生）の4人で、長男は土曜日の日本語学校に通っております。週末には、車でアクセス可能な自然豊かなトレイルコースを訪れたり、MLBやNBAの観戦を楽しんだり、家族で当地での生活を満喫しております。シンガポール駐在時は現地の日本人会の活動に携わった経験もございます。海外での日本人コミュニティの重要性は、ますます高まっていると認識しております。商工会の地域協力担当理事として、ワシントンD.C.地域における日系コミュニティのプレゼンス向上に、微力ながら貢献できればと考えております。

至らぬ点多々あるかと存じますが、会員の皆様のご指導・ご支援を賜れますと幸いです。何卒よろしくお願い申し上げます。

中村会長退任のご挨拶

中村 学 Gaku Nakamura
General Manager, Washington DC Office
Mitsubishi Heavy Industries America, Inc.



日頃よりワシントン日本商工会の活動に多大なるご支援とご協力をいただき、深く御礼申し上げます。

2023年3月に商工会理事を拝命し、最初の約2年間を財務担当として、そして2025年1月からは会長という大役を務めさせていただきました。この度、7月初旬に帰任することとなり、6月の理事会にて会長職を後任の齋藤会長へと引き継がせて頂きました。本来の任期を半年残しての帰任には少し後ろ髪を引かれる思いもございますが、無事に引き継ぎを終え、安堵しております。

振り返りますと、日本人会のないワシントンDCにおいて、商工会が日本人・日系企業コミュニティの中心的な役割を果たすべく、各理事、そして会員の皆様とともに、様々なイベントを手作りで築き上げてきたことは、大変感慨深い思い出です。中でも2025年の新春祭りでは、多くの方々が日本の伝統文化や食を通じて笑顔で交流されている姿を拝見し、商工会活動の意義を改めて強く実感致しました。また、ネットワーキングや、ゴルフなどのスポーツイベント、研修会等へも皆様に積極的にご参加いただき、ワシントンDCならではの「規模は小さくとも、非常に温かく強い連帯感」を持ったコミュニティの魅力を実感する日々でした。

トランプ政権第二期の開始という激動の中で、会員企業の皆様や日本大使館の皆様と様々な局面をご一緒できたことは、私にとって大変貴重で思い出深い経験となりました。帰国後も引き続き米国の渉外関係業務に関わってまいりますので、ワシントンDCへ出張する機会もあろうかと思います。その際は、ぜひまた皆様にお声がけ頂けると幸いです。

最後になりますが、ワシントン日本商工会の益々のご発展と、会員の皆様のご健勝・ならびに各企業・団体のご躍進を心よりお祈り申し上げます。これまで誠にありがとうございました。

古茶理事退任のご挨拶

古茶 大三 Daizo Kosa
General Manager and Chief Corporation Representative
NTT Washington DC Representative Office



2023年3月に地域協力担当理事を拝命して以来、約3年間にわたりワシントン日本商工会の活動で大変お世話になり、ありがとうございました。桜まつりを機会とした日米文化交流の促進、会員ご子息・ご令嬢への日本語教育、食育を通じた日本の価値や魅力の発信など、DMVエリアで活躍される様々な団体の活動に触れる機会をいただき、関係の皆様のご熱意とご尽力に深い敬意を抱いてまいりました。

また、そのような意義深い活動に微力ながら携わり、ご支援する機会をいただけたことは、私にとってかけがえのない経験と思い出となりました。

重ねて御礼を申し上げます。

ワシントン日本商工会の今後益々のご発展と、会員の皆様のご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます。日本へ帰任後も変わらぬご縁を賜り、引き続きご指導ご鞭撻をいただけますと幸甚です。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

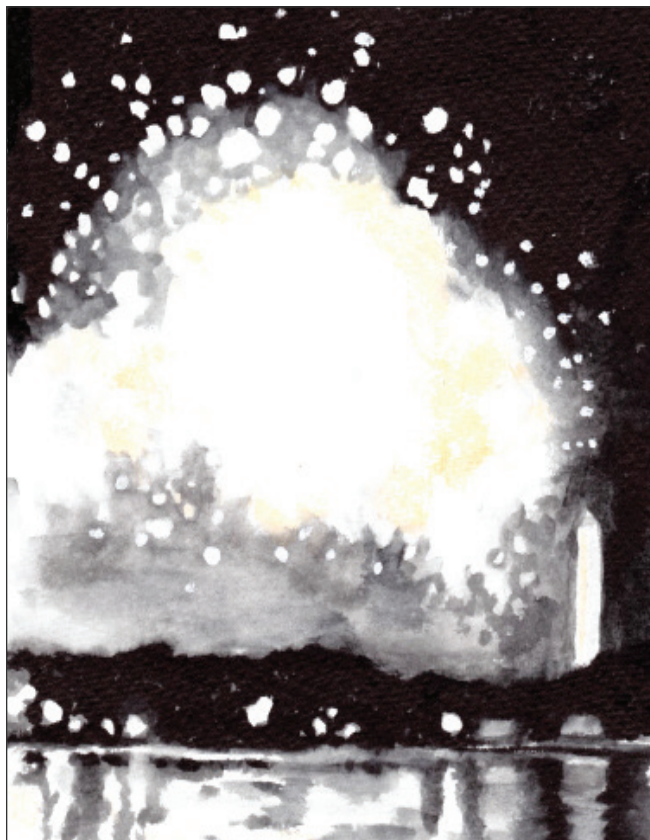


Illustration by Emi Kikuchi

米国日本通運株式会社は2022年1月より、
社名を**NXアメリカ株式会社**へ変更致しました。



帰国の際の引越はNXアメリカにお任せください

お問い合わせ、お申込みはNXアメリカワシントン営業所まで

TEL: (703)-661-8326 (日本語ダイヤル)

URL: <https://www.nipponexpress.com/moving/us/>



研修会報告

「Venezuela, Cuba, and Beyond: Developments and Prospects for the Western Hemisphere」

講演者: コンチネンタル・ストラテジー エリック・ファーンズワース氏

研修担当理事: 清水 梨江子／内田 文平



2026年6月24日(水)、ワシントン日本商工会はコンチネンタル・ストラテジーでパートナーを務めるエリック・ファーンズワース氏をお招きし、「Venezuela, Cuba, and Beyond: Developments and Prospects for the Western Hemisphere」と題する研修会を開催しました。

講師を務めて下さったファーンズワース氏は、ワシントン所在のコンサルティング会社コンチネンタル・ストラテジーで国際政策・通商チームを率いる戦略コンサルタントで、ホワイトハウス、国務省、米通商代表部、連邦議会等に勤務した経験を有する中南米地域の専門家です。

今回の研修会ではファーンズワース氏から、トランプ政権の西半球政策を、同政権の通商政策全般や移民問題・エネルギー安全保障といった米国が抱える様々な課題との関係を紐解く形で丁寧に解説頂いたほか、キューバやベネズエラといった個別の中南米諸国情勢についても説明をして頂きました。

今年1月に行われたトランプ政権によるベネズエラへの軍事作戦や、同政権によるキューバへの措置にも関心が集まる中、ファーンズワース氏の講演は極めてタイムリーなものとなり、参加者の皆様は、同氏の講演に熱心に耳を傾けていらっしゃいました。また、講演後には、参加者から積極的に質問も寄せられ、ファーンズワース氏との会話も大いに盛り上がりました。お忙しい中、貴重なお話しをお聞かせ下さり商工会メンバーと交流下さったファーンズワース氏に改めて厚く御礼申し上げます。

商工会では今後も会員の皆様にとって有益な機会となる研修会を企画・運営して参りたいと思いますので、引き続き宜しくお願い申し上げます。





新会員紹介コーナー

新規会員の自己紹介ページです。今月は個人会員二名から紹介文をいただきました。既存会員による自己紹介機会もございますので、お気軽に事務局(office@jcaw.org)までご連絡下さい。

会員名: 山田 美緒

 mio.yamada@kroll.com

 202-449-1819

自己紹介・入会動機



転職に伴い、15年ぶりにワシントンに戻ってまいりました。NHKワシントン支局で勤務していた際にお会いした方もいらっしゃるかと存じますが、現在はKroll(金融およびリスクアドバイザリーを提供するグローバルコンサル会社)に勤めております。米国における日系企業のサポートを専任で担当しております。懐かしい友人との再会、そしてJCAWを通じて新たなご縁に恵まれておりますことを大変嬉しく思っております。今後とも何卒よろしくお願いいたします。

会員名: 柏俣 麻里子

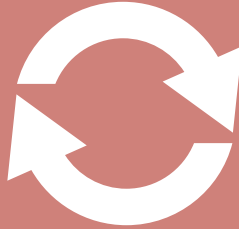
 momotoissy@gmail.com

 223-284-9259

自己紹介・入会動機

TV Asahi ワシントン支局でプロデューサーをしております。セミナーやイベントなどを通じて、皆様と交流させていただけることを楽しみにしております。さまざまな方と情報交換をしながら、ご縁を広げていければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

登録情報の ご確認、更新をお忘れなく



法人会員、個人会員と
もにご登録情報（会員名、電話
番号、メールアドレスなど）にご変
更がある場合は、
お気軽に事務局ま
でメール（office@jcaw.org）にてご
連絡ください。

会報やその他の情報がタイムリーにお
手元に届きますよう、登録情報の更新
にご協力ください！



YAMATO
TRANSPORT
U.S.A.

INTERNATIONAL
MOVING SERVICE



お荷物の多い方！時間のない方！
面倒なお引越は全てまかせて
ら〜くらく！



箱に入らない家具や
自転車なども送りたい、だけど安く
済ませたい！そんな方へ



定形の箱に入るお荷物だけ
ご自身で梱包をして節約！
すぐに必要ではない
お荷物は船便で割安に



定形の箱に入るお荷物だけ
ご自身で梱包をされる方
必要な荷物を
最短の所要日数でお届け



各サービスの詳細はウェブサイトにてご覧いただけます！

www.yamatoamerica.com/cs/



フリーダイヤル 5 4 5 6 5 8
1-866-5-KIKOKU

日本以外の世界中へのお引越・米国内のお引越も！

米国ヤマト運輸 ワシントンDC支店

22930 Quicksilver Drive, Unit 115

Dulles VA, 20166

Phone: (703) 661-3501

Email: wasoperat@yamatoamerica.com

皆様に支えられ、 インテレッセは創業30周年。

Washington, DCを拠点に、日英バイリンガル人材
採用と人事クラウドサービスを支援しています。



提供サービス

■ 人事管理クラウドサービス (iiiHR事業)

30年の派遣管理経験から生まれた、人事管理を効率化
するクラウドサービス。

主なメリット

- ・人事アドミ: 時間と手間を軽減
- ・法令遵守: 基礎的な条項を網羅
- ・クラウドサービス: 利便性を向上
- ・格安なサービス料金: \$480/月〜

30日間

無料トライアル実施中！

Email: iiiHR@iiicareer.com

Website: www.iiiHR.com

■ 人材紹介・派遣サービス (iiicareer事業)

DC地域の特性と企業ニーズを理解したきめ細やかな
マッチング。

■ 調査業務・各種コンサルティング

市場調査、組織課題の可視化、人事制度改善支援など。

■ 地域情報誌「さくら新聞」発行 (iii-Media事業)

DC地域のコミュニティと企業をつなぐ情報発信。



採用・人事・ビジネスに関するご相談は、どうぞお気軽にお問い合わせください。

interesse international inc.

Email: dc@iiicareer.com Tel: 571-384-7117

1717 K Street NW Suite 900, Washington, DC 20006

広告募集のご案内

JCAW会報に広告を掲載しませんか？



広告のイメージ図

JCAWは、ワシントンDCにおける日本人コミュニティの重要な情報発信元であり、商工会議所として地域社会において重要な役割を果たしています。

そんなJCAWの会報を通じて、貴社の広告や宣伝を効果的に発信しませんか？

会報の広告にはリンクを設定でき、クリック一つで貴社のウェブサイトやEメールアドレスにアクセス可能です。さらに、年間契約でお得なプランもご用意しております。

詳細は、ぜひJCAW事務局までお問い合わせください。

料金体系（2026年1月からのレート）

広告掲載先	サイズ	商工会会員		非会員	
		月料金	年料金	月料金	年料金
会報※	1/4ページ	\$65	\$600	\$100	\$860
	1/2ページ	\$130	\$1,200	\$165	\$1,470
	1ページ	\$260	\$2,400	\$320	\$2,880

※ 会報広告 原稿制作費は当広告掲載料金に含まれません。原稿は広告主様にて手配願います。
1年（1月～12月）契約で1回割り引きとなります。（会報は年10回発行）

お問い合わせ先

Japan Commerce Association of Washington, D.C., Inc.
1819 L Street N.W., Suite 410, Washington, D.C. 20036
TEL: 202-463-3947 FAX: 202-463-3948
Email: office@jcaw.org URL: www.jcaw.org

やさしいコミュニケーション

「④ 米国における過去の捉え方と歴史の伝え方」

Shiori Communications 岡崎 詩織

建国250周年を祝う今年の独立記念日には、全米各地でイベントが行われ、盛大な花火が打ち上げられました。ただ、国の分断や価格の高騰などが続く中、祝ってばかりでもいられません。節目の年は過去を振り返り、未来を再考する機会にもなります。そこで今回は、米国における過去の捉え方や歴史の伝え方を分析します。

まず、過去に対する従来の考え方から。アメリカの人々は、民主主義の重要性を子供の頃から学び、米国に大きな誇りを抱いています。最初から民主主義の国家は他になかったと言われており、ジョージ・ワシントン大統領は米国の建国を[the last great experiment for promoting human happiness](#)(人々の幸福を追求するための最後の偉大な実験)と呼んだと言われています。



250周年を祝うワシントン・モニュメントと独立記念日の花火

実験は、試行錯誤を繰り返してより良い成果につなげていきます。古い体制である大英帝国を抜けたからこそ、米国は、設立当初だけでなく、その後もなんでも新しいものを取り入れようとした、とも考えられます。その新しいものには、西部開拓時におけるmanifest destinyの考え方や積極的な移民の受け入れも含まれ、人の交流がアイデアや発明を生む流れが形成されたように思います。また、常に進化し続ける中で、失敗に寛容でリスク許容度が高い文化が発展したともいえるでしょう。(深刻な状況に直面する上でFailure is not an option.と謳う米軍など、一部例外はあります。)

第二次世界大戦を反省する日本ほどではないかもしれませんが、常に前を向く米国でも、ここ数十年恥じてきた歴史があります。それはほとんど、マイノリティに関する話です。奴隷制度やジム・クロウ法、アメリカ先住民の強制移住、ハワイ先住民への差別、日系人の強制収容などです。(ベトナム、アフガニスタンなど、確実な勝利につながらなかった戦争なども汚点となっていますが、遠い国の出来事より国内の問題の方が着目されますし、その多くは、所得や権利の格差、社会的差別といった意味で今も未解決です。)

米国社会が進化する中、こうした過去を是正する動きもかなり強いものでした。たとえば、南部の入り口であるバージニアでは、南軍や奴隷制度に関していろいろな活動が行われてきました。1990年代には、建国の父の一人であるトーマス・ジェファソン大統領が[自身の奴隷であったサリー・ヘミングス氏と子を成していた](#)ことがDNA鑑定で判明し物議を醸しましたが、私がシャーロットビルスのジェファソン邸宅を訪ねるたび、ヘミングス氏に関する展示は大きくなっている気がします。アメリカ連合国(南軍側)の大統領だったジェファソン・デイビスの名がついていた高速道路は、各地で名前が変わり、バージニア州では2022年にEmancipation(解放) Highwayと改名されました。2020年のジョージ・フロイド氏の殺害を受けてBlack Lives Matter!に関する抗議が世界中に広まり、各地で[南軍のみならず、差](#)



ミネソタ州議会議事堂近くで倒されたコロンバスの像(撮影: Tony Webster)

別や植民地政策などに関連する様々な銅像が倒されたり除去されたりしたことも記憶に新しいことと思います。

近年の米国では、こうした流れが変わりました。保守派の判事が大半を占める最高裁でロー対ウェイド(1973年)の判決が2022年に覆されたり、移民や外国人労働者の受け入れが極端に厳しくなったり、といった形で、社会全体で政策の見直しが起きています。新しいものを取り入れるのではなく、宗教や感情に基づく決断がなされ、守りの姿勢に入っています。

特に懸念すべきなのは、歴史の伝え方が変わってきていることです。今年3月には、DEI関連の情報を削除する国防総省の取り組みの一環として、第二次世界大戦で活躍した日系人の442部隊に関するウェブページが消されました。そのページは日系人らの運動を受けて復活したものの、こうした動きは今も続いています。7月4日、[ホワイトハウスは、スミソニアン国立アメリカ歴史博物館が「急進的」で「反白人活動」を行っているとする報告書を出しました](#)。これに対し、スミソニアンは「超党派かつ独立した学術研究」を維持するとしていますが、もし今後スミソニアンの展示が変わることになれば、そこを訪問する多くの成人のみならず、次世代の子供たちの教育にも影響が出ます。

連邦政府の信託機関であるスミソニアンに比べればもっと先の話かもしれませんが、いずれは州や自治体が管理する公立学校や公共図書館にまで圧力がかかる可能性もあります。保守派だけに問題があるわけではありません。2020年の銅像に対する活動では、地元の人々の合意で静かに除去されたものもありましたが、抗議者が荒々しく落書きしたり倒したりしたものも多く、物議を醸しました。

歴史を見直したという事実、その見直しを取りやめて過去に戻ったという事実も、また歴史の一部となっていくます。米国憲法の修正条項には、いわゆる禁酒法である修正第18条とそれを撤廃する第21条、という冗談みたいなペアが残っています。こうした試行錯誤の記録こそ、人々がもがいてきた歴史に最も忠実な気がします。

AIのハルシネーションやSNSのフェイクニュースが蔓延する今の時代、「正しい一つの真実」は、いずれにせよ分かりづらくなっています。起こったことに対し、どう感じたかは、その人にしか分かりえないことです。これまでは公式な見解の方が信頼されてきましたが、このように歴史修正が行われる状況では、一人一人が日記やブログ、手紙やメールといった一次資料をしっかりと残し、家族に伝えたり、世界に発信したりすることがますます重要になってくるでしょう。

● ● ● ● ● ● ● ● ● ● ●

岡崎 詩織プロフィール:



シアトルで生まれ、ホノルルと東京で育つ。Shiori Communications, LLCの代表として、ワシントンDCを中心に、通訳、執筆活動などを展開。日米をつなぐ言葉の仕事に情熱を注いできた。過去には米日カウンシルや在米・在英日本大使館の広報チームで勤務。通訳者としては、日米各地でハイレベルの会議、人的交流プログラムなどを担当。ダートマス大学で学士号、コロンビア大学の国際公共政策大学院とジャーナリズム大学院で修士号を取得。TBSワシントン支局のポッドキャスト「週刊ワシントン」の準レギュラー。ブログ「tabula sarasara」、ポッドキャスト「CrossWorld Puzzles」更新中。

今月の書籍紹介

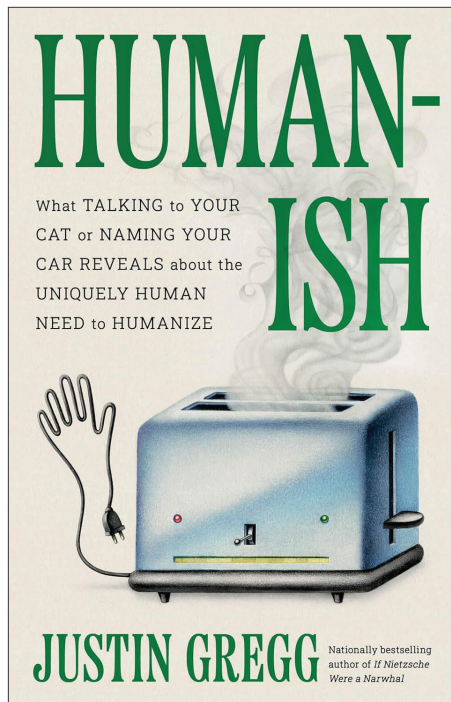
動物が違う考えだと明白でもつい人間と同じように扱ってしまう

ペットを人間のように扱う人にはお勧めの著

「ヒューマニッシュ」

ジャスティン・グレッグ

ポトマック・アソシエーツ 池原 麻里子



「ヒューマニッシュ」
ジャスティン・グレッグ(アシェット)

著者はイルカ・コミュニケーション・プロジェクト上級研究員、聖フランシスコ・ザヴィエル大学非常勤講師。本書の副題は『猫に話しかけたり、自分の車に名前をつけたりする行為が、人間特有の「擬人化」への欲求について何を物語っているのか』で、擬人化について考察している。

本書はまず、「ニューティクルズ」の発明者グレッグ・ミラーの紹介から始まる。彼は自分のペットのオス犬に盛が付いて数日姿を消したことから、しぶしぶ去勢した。その後、その犬が陰囊を舐めていた事から、元の体でないことを悲しんでいるのだと哀れに思い、人工睾丸「ニューティクルズ」を発明する。当初はプラスチック製だったが、歩く度にカチカチと音がすることから、シリコン製になった。この発明はイグノーベル賞も受賞しており、ミラーは犬の自然な外見と自尊心のための製品だとマーケティングしている(どうも男性の飼い主の方が去勢後の外見にこだわるらしい)。しかし、獣医協会などは犬が人口睾丸を必要とする医学的または心理的理由はゼロと批判的だ。それでも飼い主たちがこのニューティクルズ挿入手術を施し、ミラーが大儲けをしているのは、飼い主たちが犬を擬人化しているからだ。

人間が擬人化をすることの生物学的利点に関して2つの仮説がある。1つは非人間的な存在に人間的な特徴を投影することで、他の人間との社会的つながりを築く機会を逃すことを防ぐ。これは「社会的動機仮説」と呼ばれる。もう1つは擬人化によって、予測不可能な世界を理解する手助けとなるという「エフェクタンズ動機仮説」。観察可能な行動を人間のような意図を通じて説明しようとする欲求だ。

非人間が人間のような瞳や顔をしたり、人間の様な動きをしたり、人間の言葉の能力があるような意思疎通をしているように見えると、それがあたかも人間のような接し方を始めるように私たちの脳は準備する。

しかし、動物の行動を解釈する際、擬人化は科学者にとっても一般の人々にとっても問題だ。無意識の働きが常に背景に潜んでおり、たとえ動物が人間と同じように物事を考えていないという証拠が明白であっても、私たちはつい動物を人間と同じように扱ってしまうからだ。

本書には日本のかわいい文化も登場する。日本の精神的伝統が持つアニミズム的・多神教的な性質は、日本人が動物や物事に向き合う姿勢の中に今も息づいているのだと指摘する。日本人がかわいい動物や物に対して擬人化を行う傾向は、その文化に深く根付いているものであり、ごく幼い日本の子供たちにおいても科学的に確認でき、無生物に対して擬人化を行う傾向が、他国の子供に比べ最も強い。

しかし、ぬいぐるみやロボットなど外見・動きが人間に近づくほど親近感が増すが、ある一定のラインを超えて「ほぼ人間」に見えると、急に不気味さや嫌悪感を感じるようになる。これが、ロボット工学者森政弘氏が1970年に提唱した「不気味の谷」という心理現象だ。ただこれも文化間で差があり、アメリカ人はロボットが人間に近いと不気味だと感じ、日本人はそれほど拒否感を示さない。それは文化的・宗教的なバックグラウンドの差だと思われる。

故人をAIで再現し、遺族に語り掛ける場を提供するグリーフボット。専門家たちは、このボットは遺族が愛する人の死と向き合うための健全な方法なのか、それとも心の傷が癒えずにいる人々にとって、AI技術への有害な依存を生み出すことになるのか議論中である。愛した人が実は亡くなっていないという幻想を生むかもしれないし、遺族は自分たちがコンピューターと会話しているのだと知らない可能性もありえる。

著者いわく、自省なしに動物に人間の感情を投影すれば、動物たちは苦しむことになり、害をもたらす可能性がある。擬人化のプロセスは、快楽をもたらすものとして進化してきた。自然選択によって、私たちは他の人間の心を求め、そうすることで報酬を得ることに熱心な心を持つようになった。人間のような心が存在しない場所に、人間のような心を見出そうとする努力は、多くの場合、有益だ。それにより、私たちは無生物の行動さえもより正確に予測できるようになり、恐ろしいほどの不確実性に支配された世界において、存在しない意図を想像することはしばしば私たちを安心させてくれる。著者は、擬人化することはその自覚がある限り良いことなのだと結論を出している。

(New Leader 2026年5月号より転載)

English Rescue by Jennifer: 「Language and Culture」

ジェニファー・スワンソン

Hot Topics – America’s 250th Anniversary and National Parks

The 250th anniversary of the United States in 2026 offers an opportunity to reflect on the nation’s history, ideals, and shared heritage. The National Park Service plays an important role in preserving the landscapes, historic sites, and monuments connected to America’s founding and development—from Revolutionary War battlefields to civil rights landmarks. During this anniversary year, national parks provide meaningful places for Americans and international visitors alike to learn about the country’s past while recognizing the importance of protecting these sites for future generations.

In this series, we are highlighting national parks that commemorate important chapters of American history. So far, we have explored **Yellowstone NP (Wyoming)**, **Independence National Historical Park (Philadelphia)**, **Great Smoky Mountains NP** - home of the Cherokee people and Appalachian Mountains and culture, **Saguaro NP (outside of Tucson, Arizona)**, **Biscayne NP (South Florida)** and **Lewis and Clark National Historical Park**.

This month, we focus on civil rights landmarks and National Park Service sites in honor of the Juneteenth and Independence Day holidays, celebrating the continuing journey toward freedom for all.

Juneteenth: Celebrating Freedom and America’s Continuing Story

June 19, or Juneteenth, commemorates one of the most significant moments in American history. On June 19, 1865, Union General Gordon Granger arrived in Galveston, Texas, and announced that all enslaved people in Texas were free under General Order No. 3. Although President Abraham Lincoln had issued the Emancipation Proclamation more than two years earlier, freedom could not be enforced in Texas until Union troops arrived after the Civil War. Since then, Juneteenth has become a day to celebrate freedom, resilience, and the ongoing pursuit of equality. In 2021, Juneteenth was officially recognized as a United States federal holiday.



A reenactment of “the moment of freedom” for the Washington family at Booker T. Washington National Monument in Virginia. Photo courtesy of [nps.gov](https://www.nps.gov)

The National Park Service preserves many of the places that help tell the story of slavery, emancipation, Reconstruction, and the long struggle for civil rights. These sites invite visitors to explore the experiences of those who fought for freedom and the generations who worked to build a more just nation.

Among these important places is **Reconstruction Era National Historical Park** in South Carolina, which interprets the transformative years following the Civil War, when newly freed African Americans sought education, economic opportunity, voting rights, and full citizenship. **Fort Monroe National Monument** in Virginia, known as “Freedom’s Fortress,” marks the site where thousands of enslaved people sought refuge behind Union lines, helping pave the way toward emancipation. **Nicodemus National Historic Site** in Kansas preserves the only remaining all-Black town established during Reconstruction by formerly enslaved people seeking new opportunities in the American West. Visitors can also explore **Booker T. Washington National Monument** in Virginia, the birthplace of the influential educator who was born into slavery and became one of the nation’s leading voices for education and advancement.



A reenactment of “the moment of freedom” for the Washington family at Booker T. Washington National Monument in Virginia. Photo courtesy of [nps.gov](https://www.nps.gov)

As America commemorates its **250th anniversary**, Juneteenth reminds us that the nation’s history is both complex and inspiring. The ideals of liberty and equality expressed in the Declaration of Independence have been expanded through the courage and perseverance of generations of Americans. By preserving these places and sharing their stories, the National Park Service helps visitors better understand the challenges, achievements, and continuing journey toward “a more perfect Union.”

Learn More About Juneteenth

- National Park Service – Juneteenth National Independence Day
<https://www.nps.gov/subjects/npscelebrates/juneteenth.htm>
- Juneteenth: A Celebration of Freedom
<https://www.nps.gov/articles/juneteenth-origins.htm>

National Park Service Sites

- [Reconstruction Era National Historical Park \(South Carolina\)](#)
- [Learn About Reconstruction Era National Historical Park](#)
- [Fort Monroe National Monument](#)
- [Nicodemus National Historic Site](#)
- [Booker T. Washington National Monument](#)



～Jennifer Swanson プロフィール～

日本にて7年在住中に、高校英語教師の経歴を持ち、日本企業でも働いた経験を生かし、現在は米国大学講師、日米協会講師、在米日本人に英語レッスンの他、米国人に日本語も教える。日米でのさまざまな経験を基に、“頻出テーマで はじめてのTOEFLテスト 完全攻略”(高橋書店: Jennifer Swanson/四軒家 忍 (著))を出版、多方面から楽しい英語レッスンを展開しています。

jenniferswanson.org



7・8月合併号 編集後記

7月に入り、ワシントンD.C.では真夏の暑さに加え、急な雷雨に見舞われるなど天候が不安定な日々が続いています。そんな中、7月4日の米国独立記念日は建国250周年という節目を迎え、各地で花火やパレードが盛大に行われ、大いに盛り上がりました。

一方、6月から始まったサッカーWorld Cupでは、日本代表が決勝リーグ1回戦でブラジルに惜しくも敗れ、悔しい思いになった方も多かったのではないのでしょうか。ちなみに私(芦澤)は、「日本が勝ち進んだら観戦できる」条件付きのチケットを2回戦・決勝戦と持っていましたが、幻となりました...

7月は人事異動の季節でもあり、商工会理事会においても中村会長から齋藤新会長への体制がスタートいたしました。6月・7月にかけて、計4名の理事が交代しておりますが、皆さまには今後とも変わらぬご協力をお願い申し上げます。

皆さまが暑さに負けず健康でいられることを祈りながら、9月号でお目にかかれることを楽しみにしております。

芦澤・岡本

会報に関するお問い合わせにつきましては、[JCAW事務局](#)までご連絡ください。
